

2024年3月期 第2四半期決算

2023年10月30日

 大同特殊鋼株式会社

<目次>

2023年度第2四半期決算(2023年4月～9月)

23年上期決算の概要	p.1
セグメント別売上高・営業利益（前年差・予想差）	2
原材料価格	3
23年上期 営業利益の変化要因（前年差）	4
23年上期 営業利益の変化要因（4/28予想差）	5
特殊鋼鋼材概況	6
機能材料・磁性材料概況	7
自動車部品・産業機械部品概況	8
総資産、有利子負債、D／Eレシオ	9
キャッシュ・フロー	10

2024年3月期 通期見通し

23年度見直し計画の概要	11
主要市場の動向〈自動車関連需要〉	12
23年度 利益計画の前提（市況）	13
23年度 連結業績見通し	14
セグメント別売上高・営業利益（前年差・予想差）	15
23年度 営業利益の変化要因（前年差）	16

23年度 営業利益の変化要因（4/28予想差）	19
セグメント別概況（特殊鋼鋼材・機能磁性・自動車産機）	20
株式分割について	21
配当について	22
設備投資	23

トピックス

ステンレス鋼事業の見通し	24
磁石事業・チタン事業について	25
エンジニアリング事業のビジネス拡大	26
成長分野への戦略投資	27
水素活用に関連する取組み状況	28
資産効率化の推進	29
E S G の取組み	30
P B R 1 倍へ向けて	31-32
企業P R 活動の推進	33

Fact Book

34

2023年度 第2四半期決算 (2023年4月～2023年9月)

■ 23年上期決算の概要

- ▶ ステンレス鋼を中心とする在庫調整継続の一方、足元の原燃料コスト安や値上浸透により、営業利益は計画通り
- ▶ グループ会社の生産体制再編に伴う清算費用を計上し、当期純利益は計画対比減益
- ▶ シリコンサイクルの下降局面において高機能材料の出荷が一時的に落ち込んだことなどで前期差では営業減益

	2022年 上期実績			2023年 上期実績			(千t・億円)	
	1Q	2Q	合計	1Q	2Q	合計	前年差	4/28 予想差
	鋼材売上数量	280	260	540	266	263	529	-11
売上高	1,377	1,442	2,819	1,419	1,467	2,886	67	-14
営業利益	102	130	232	80	110	190	-42	0
経常利益	113	128	241	97	114	211	-30	11
特別損益	-	▲ 4	▲ 4	-	▲ 27	▲ 27	-23	-27
法人税他	▲ 14	▲ 40	▲ 54	▲ 34	▲ 35	▲ 69	-15	1
親会社株主に帰属する 当期純利益	99	84	183	63	52	115	-68	-15

■ セグメント別売上高・営業利益(前年差・予想差)

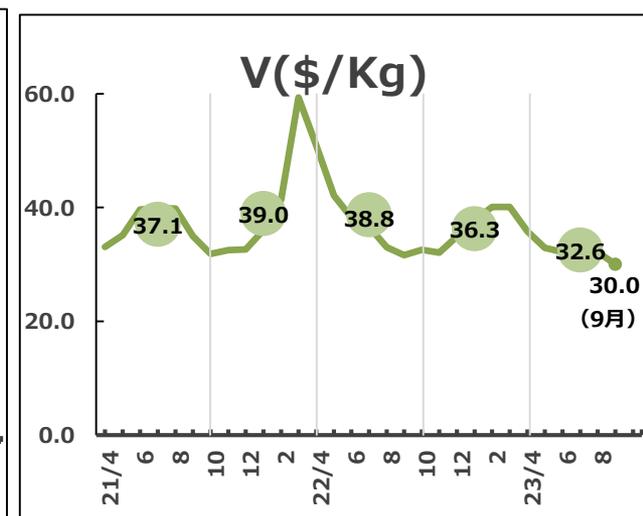
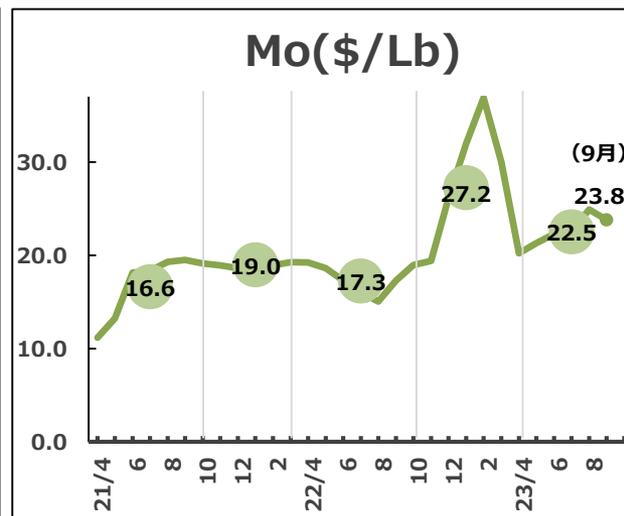
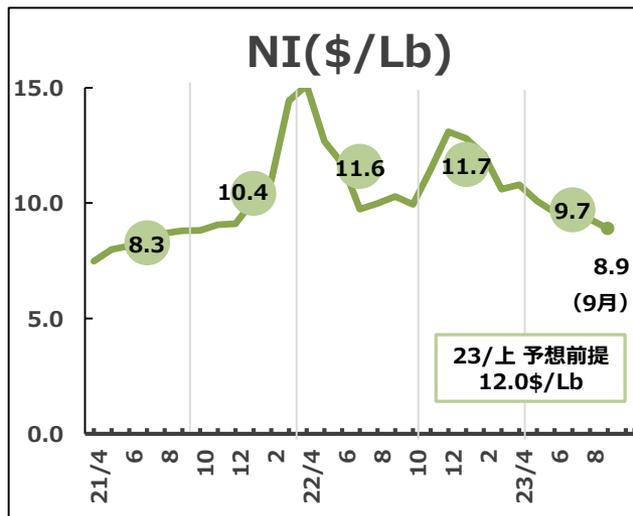
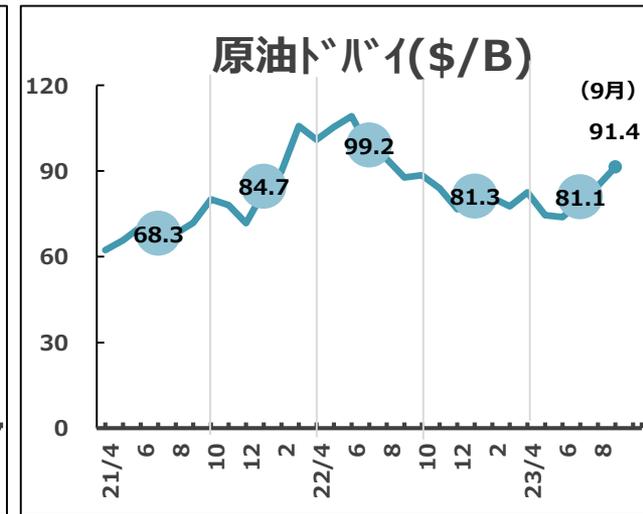
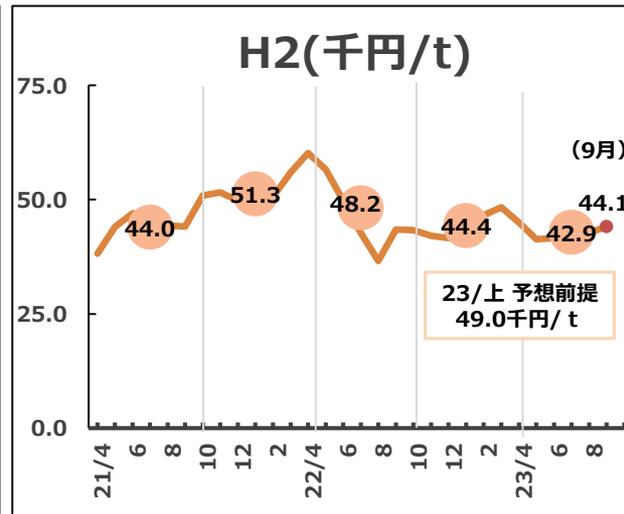
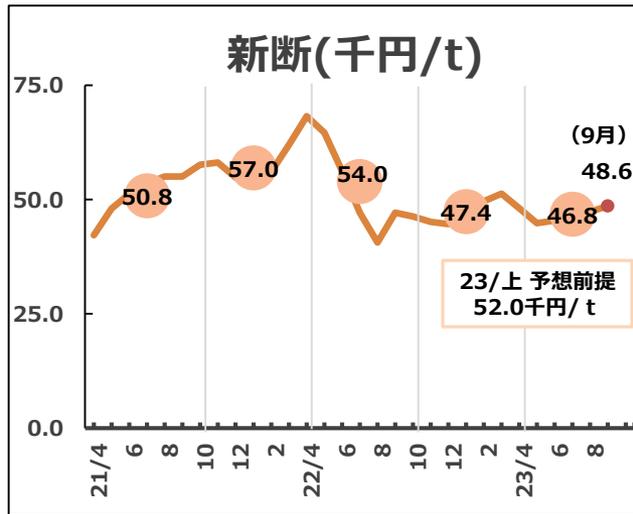
(億円)

	2022年度実績		2023年度実績						前年差		4/28予想差	
	上期		1Q		2Q		上期					
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
特殊鋼鋼材	1,028	42	553	28	536	35	1,089	63	61	21	-31	13
機能材料・ 磁性材料	1,096	134	513	33	513	38	1,026	71	-70	-63	-24	-19
自動車部品・ 産業機械部品	495	34	241	5	273	21	514	26	19	-8	-6	-4
エンジニアリング	83	4	50	5	60	6	110	11	27	7	20	6
流通・サービス	117	18	62	9	85	10	147	19	30	1	27	4
合計	2,819	232	1,419	80	1,467	110	2,886	190	67	-42	-14	0

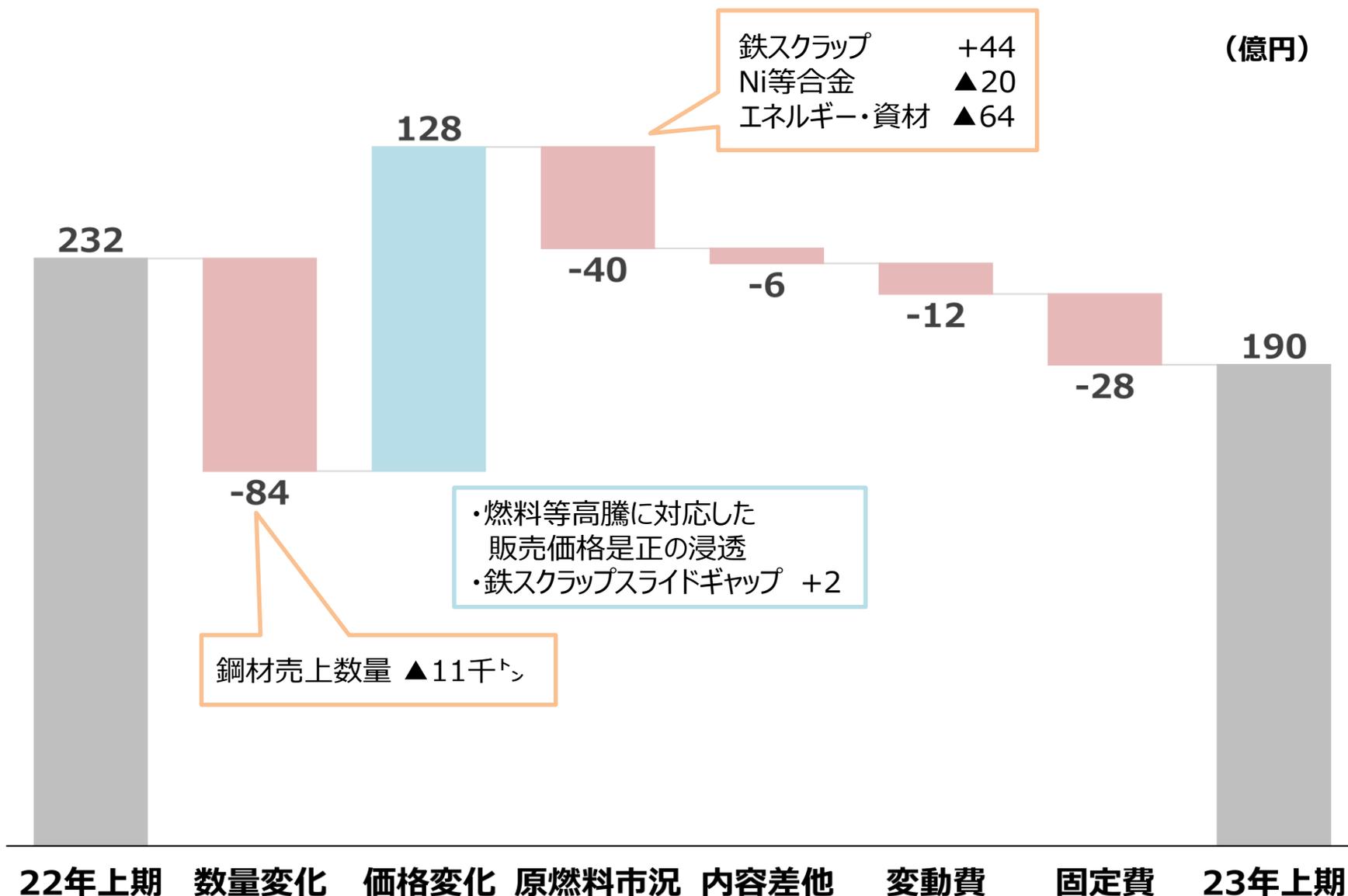
(千t)

鋼材売上数量 (単体)	540	266	263	529	-11	-15
----------------	-----	-----	-----	-----	-----	-----

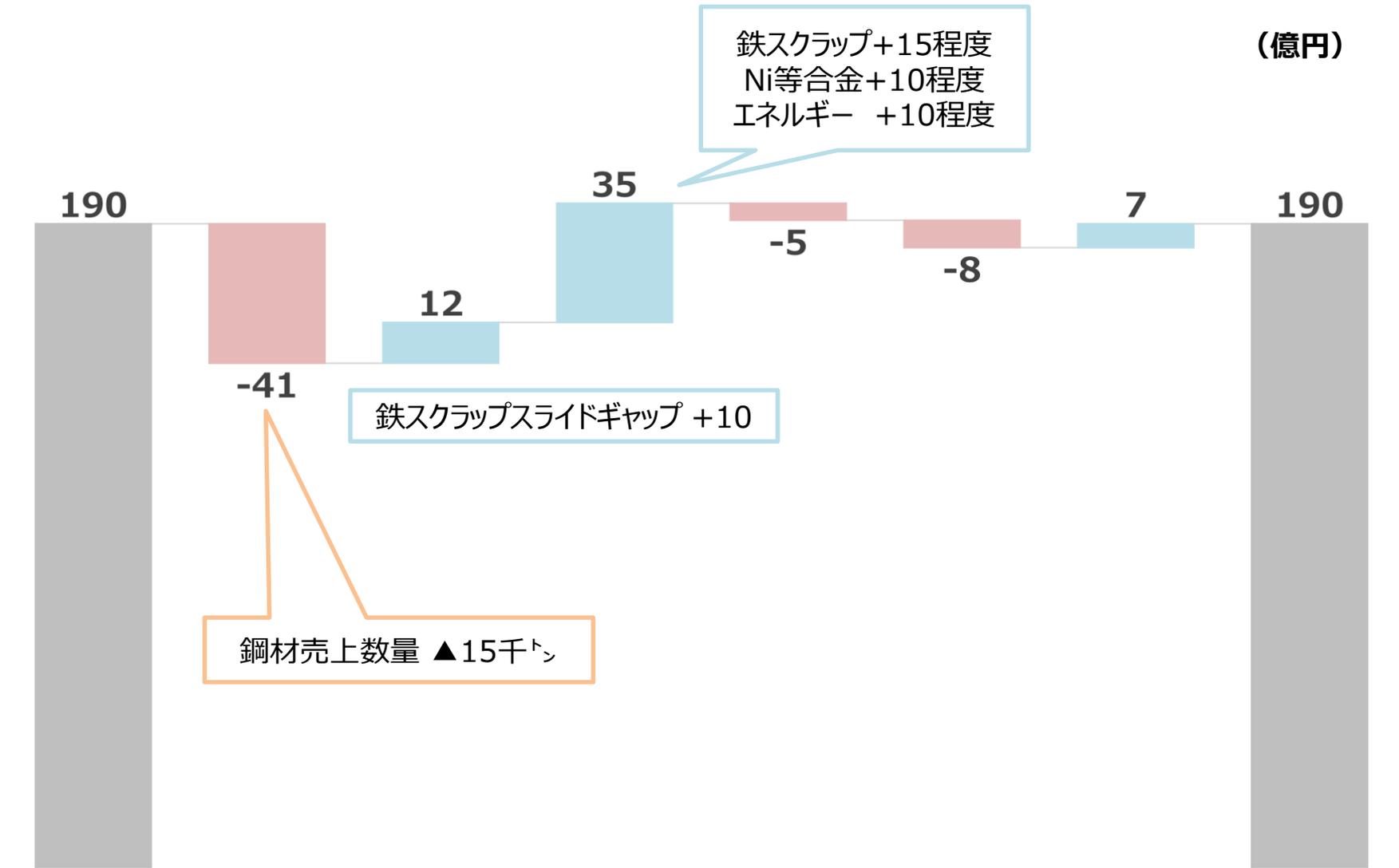
原材料価格



23年上期 営業利益の変化要因(前年差)



23年上期 営業利益の変化要因(4/28予想差)

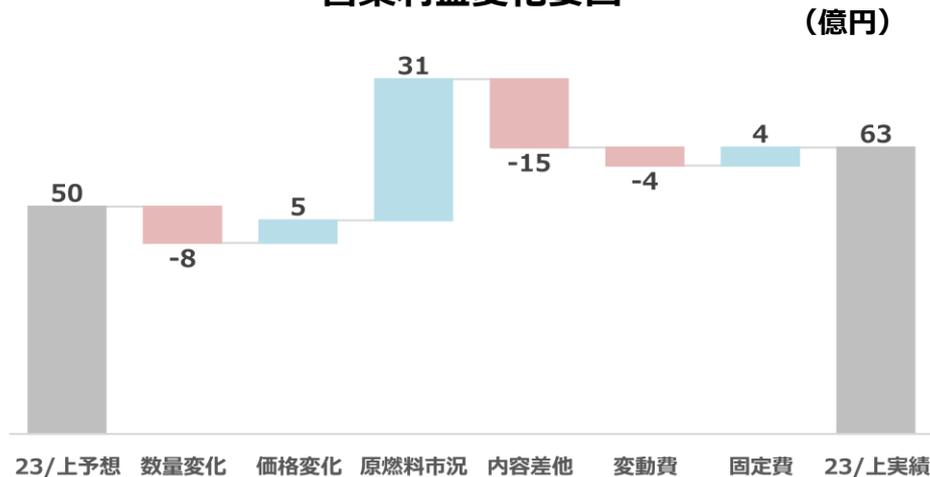


23/上予想 数量変化 価格変化 原燃料市況 内容差他 変動費 固定費 23/上実績

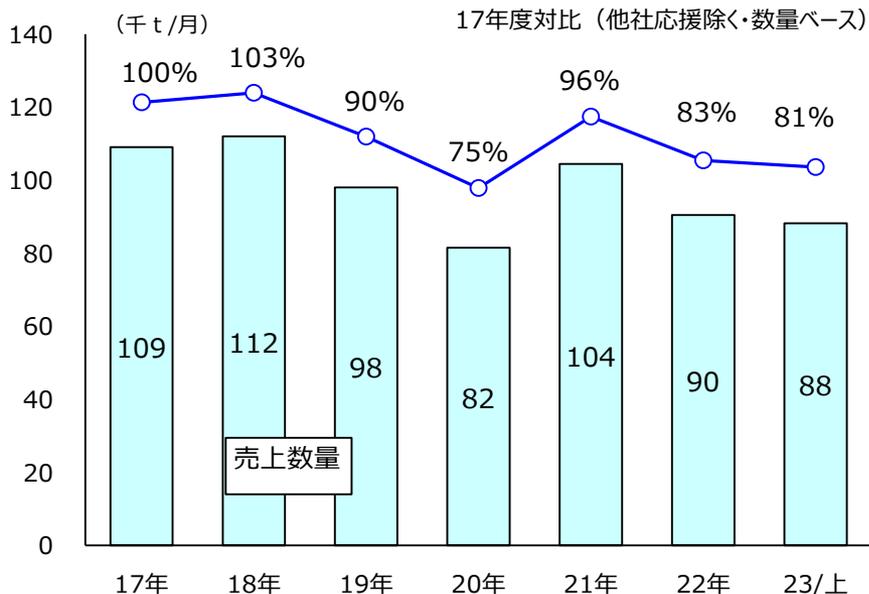
■ 特殊鋼鋼材概況

(億円)					
	22年 上期	23年上期 4/28予想	23年 上期	前年差	4/28 予想差
	a	b	c	c-a	c-b
売上高	1,028	1,120	1,089	61	-31
営業利益	42	50	63	21	13
スライディング・ギャップ ^o	-1	-9	1	2	10

営業利益変化要因



鋼材売上数量(単体)



POINT 1

産業機械関連の需要減、工具鋼の在庫調整はあるものの原燃料市況の弱含みにより当初予想対比では増益。

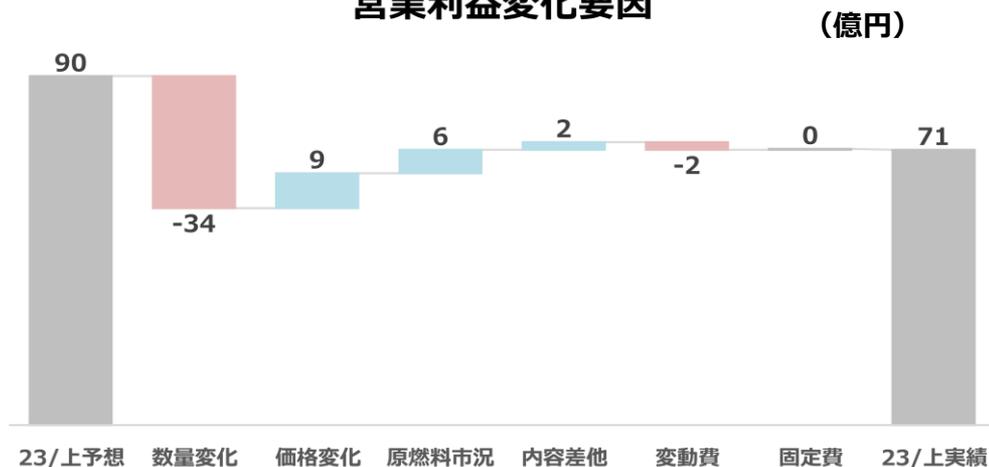
POINT 2

自動車関連の構造用鋼は半導体供給制約の緩和により前期対比で数量増加。エネルギーコスト上昇に対して販売価格是正が浸透し、前年対比増益。

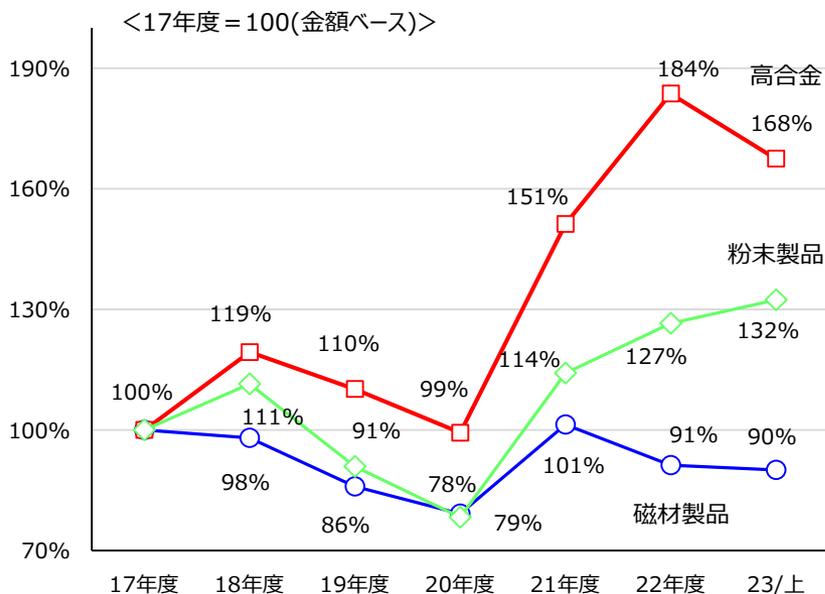
機能材料・磁性材料概況

(億円)					
	22年 上期	23年上期 4/28予想	23年 上期	前年差	4/28 予想差
	a	b	c	c-a	c-b
売上高	1,096	1,050	1,026	-70	-24
営業利益	134	90	71	-63	-19

営業利益変化要因



<高合金・磁材製品・粉末製品 (売上高)>



POINT 1

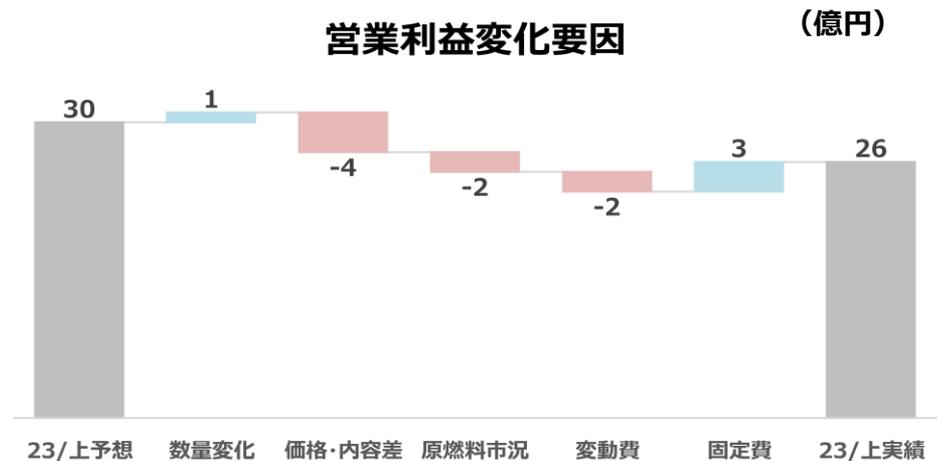
各製品とも半導体関連の受注減、在庫調整の長期化により一時的に出荷数量が減少したことで、当期予想対比減益。

POINT 2

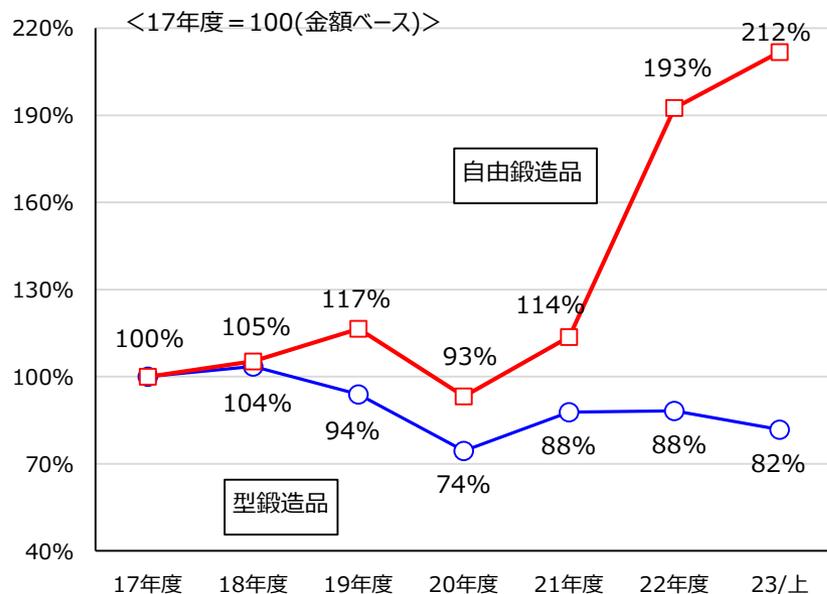
エネルギーコスト上昇に対し、販売価格是正を進めたものの数量減の影響が大きく前年対比減益。

自動車部品・産業機械部品概況

	(億円)				
	22年 上期	23年上期 4/28予想	23年 上期	前年差	4/28 予想差
	a	b	c	c-a	c-b
売上高	495	520	514	19	-6
営業利益	34	30	26	-8	-4



<型鍛造品・自由鍛造品 (売上高)>



POINT 1

自由鍛造品の受注は、エネルギー関連、航空機関連など好調を維持しており、概ね計画並みの利益を計上。

POINT 2

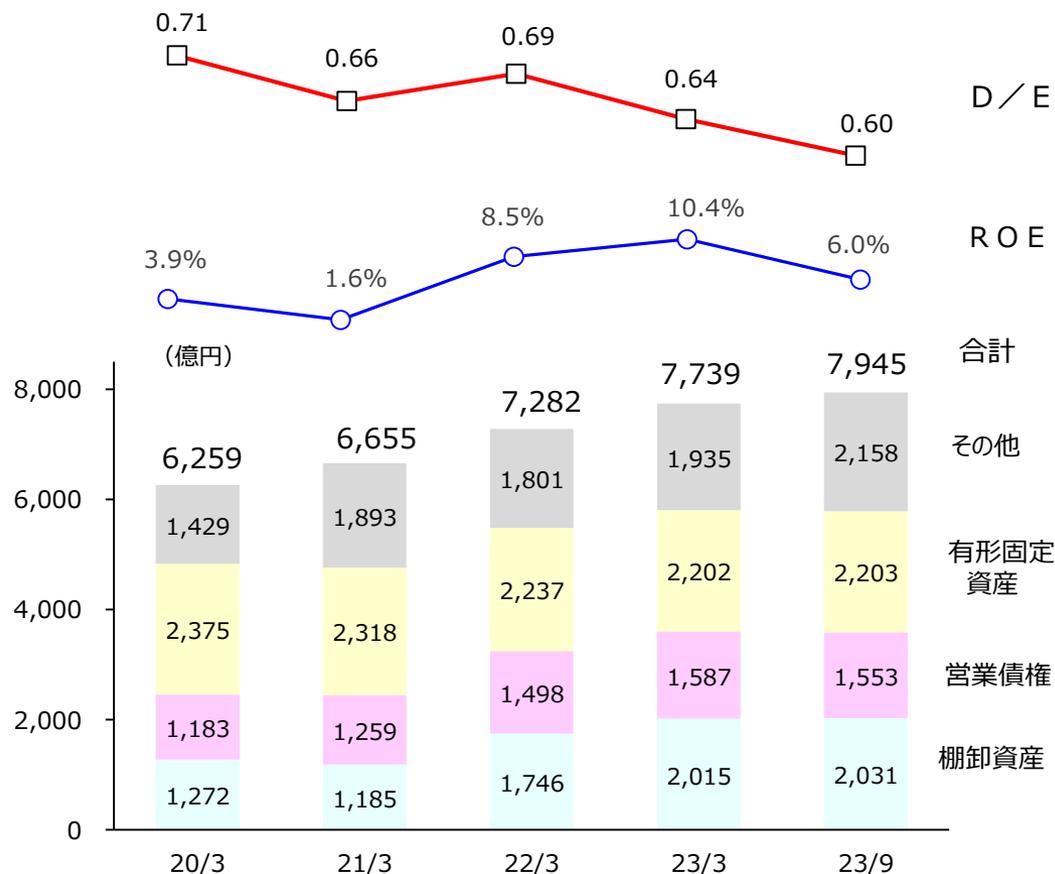
みがき帯製品および精密鋳造製品の受注減などにより営業利益は前期比減益。

■ 総資産、有利子負債、D/Eレシオ

- ・投資有価証券の株価上昇により総資産は増加。
- ・効率生産による棚卸資産圧縮に継続して取り組むことで、資産効率の改善を図る。

(億円)

	23/3	23/9	前期差
流動資産	4,281	4,281	0
現預金	582	610	28
営業債権	1,587	1,553	-34
棚卸資産	2,015	2,031	16
固定資産	3,458	3,664	206
有形固定資産	2,202	2,203	1
投資有価証券	903	1,105	202
資産合計	7,739	7,945	206
負債	3,684	3,657	-27
有利子負債	2,368	2,346	-22
純資産	4,055	4,288	233
自己資本	3,687	3,909	222
非支配株主持分	368	379	11
負債純資産合計	7,739	7,945	206

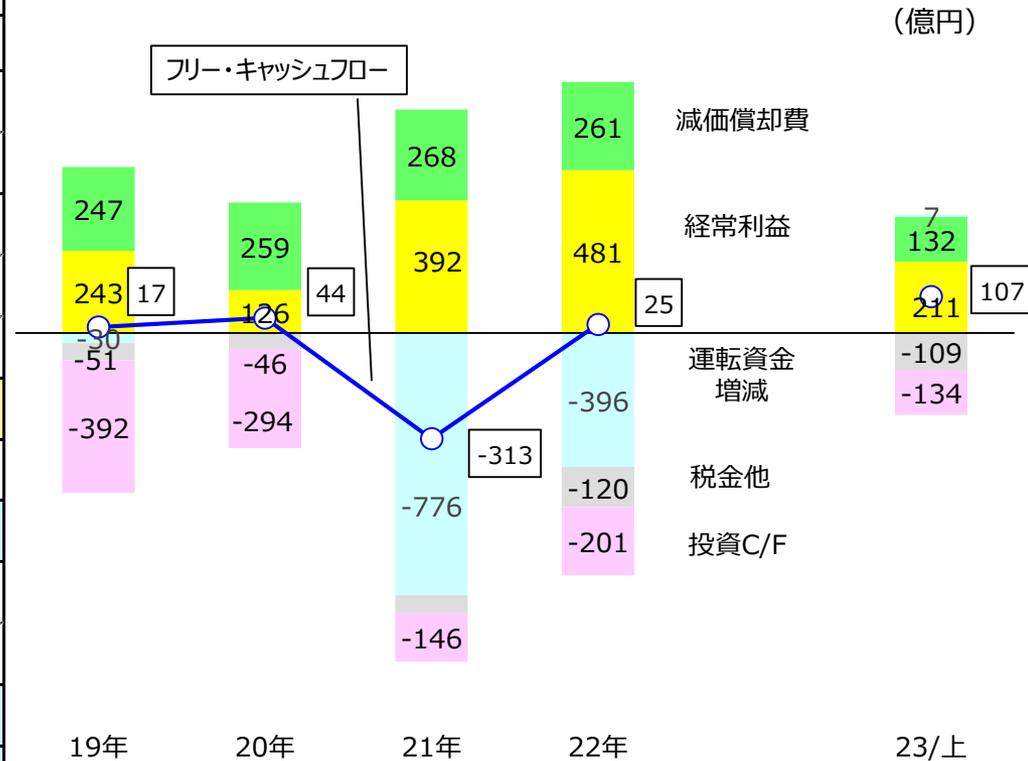


■ キャッシュ・フロー

- ・21～22年度は原材料、エネルギー価格高騰等による運転資金の支出が増加
- ・23年上期は利益確保および運転資金の改善でフリー・キャッシュフローは良化

(億円)

		22年度		23年度	
		上期	年間	上期	
営業 C/F	経常利益	241	481	211	
	減価償却費	130	261	132	
	運転 資金 増減	売掛金	-69	-80	47
		買掛金	-39	-59	-43
		棚卸資産	-257	-257	3
			-365	-396	7
税金他	-82	-120	-109		
		-76	226	241	
投資 C/F	設備投資	-101	-215	-131	
	その他	-4	14	-3	
		-105	-201	-134	
フリーキャッシュフロー		-181	25	107	



2024年3月期 通期見通し

■ 23年度見直し計画の概要

環境認識

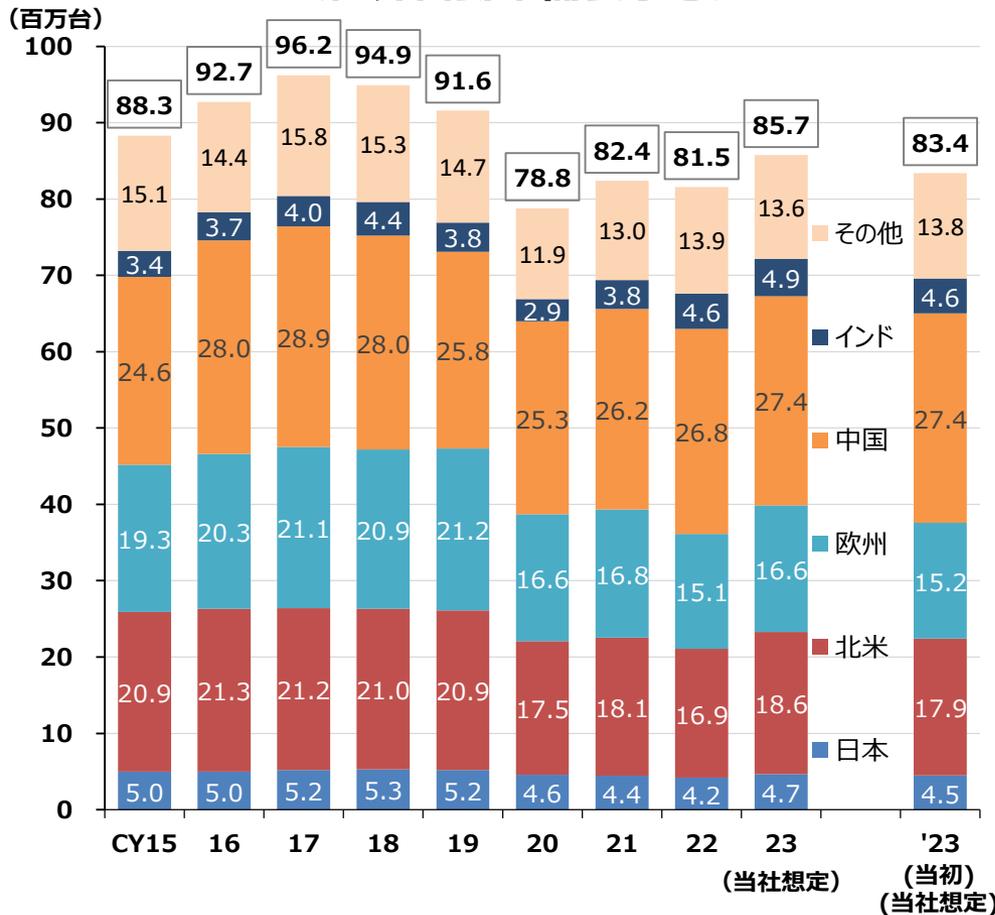
- 半導体供給制約の緩和により自動車生産は回復基調となり当初の計画どおり2023年度後半にかけて緩やかに回復する見通しである。ただし、中国経済の低迷などにより、産業機械関連の需要は当初想定対比弱含んでおり、その動向には注視していく必要がある。
- ウクライナ情勢、イスラエル紛争など不安定な国際情勢の中で、原燃料価格のみならず、食料価格、賃金上昇など世界的なインフレ圧力が継続している。

基本方針

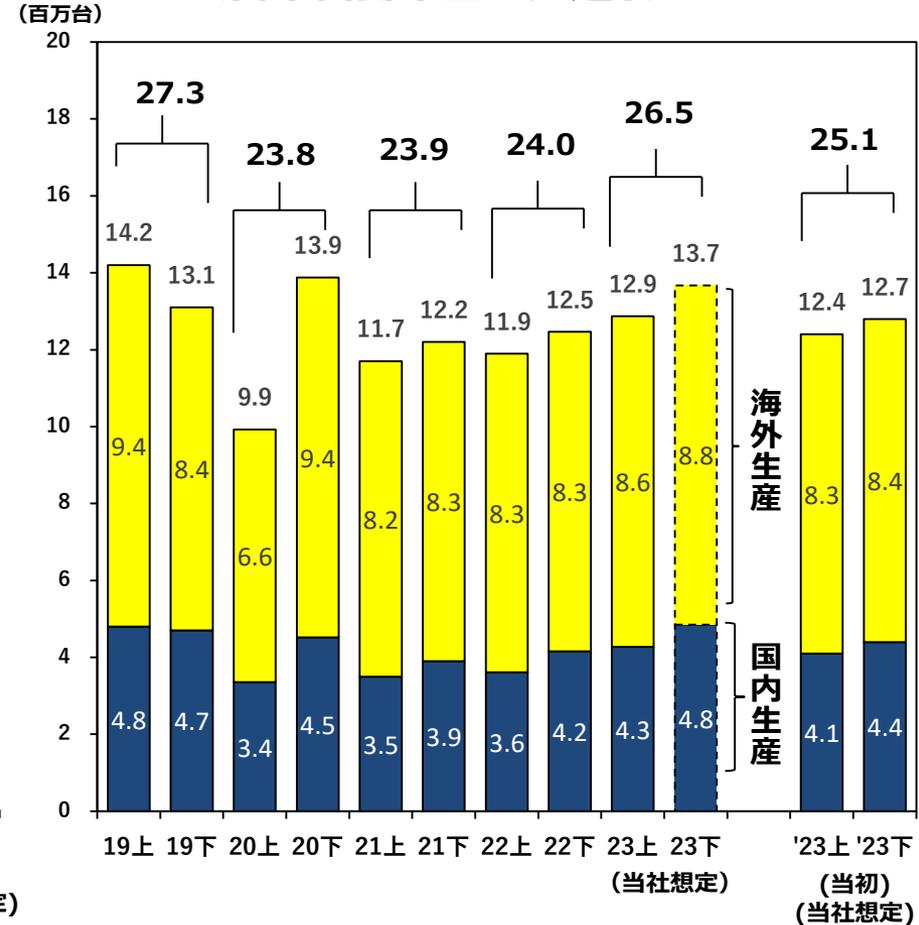
- 原材料、資源、エネルギーコストなどコストプッシュ環境において価格転嫁を継続的に推進し、持続可能な適正マージンを確保していく。
- 経営環境変化へ柔軟に対応した事業運営を実施する。また、物価高騰下における適正な棚卸資産管理などのキャッシュ・フロー改善施策を継続する。
- 円安環境下を活かし、好調な自由鍛造品（輸出高合金）、チタン製品など海外需要の最大捕捉を継続する。
また、設備投資は、戦略製品の需要増加のタイミングを見極め、上方弾力性を確保すべく適時実行していく。

■ 主要市場の動向 <自動車関連需要>

<世界自動車需要予想>



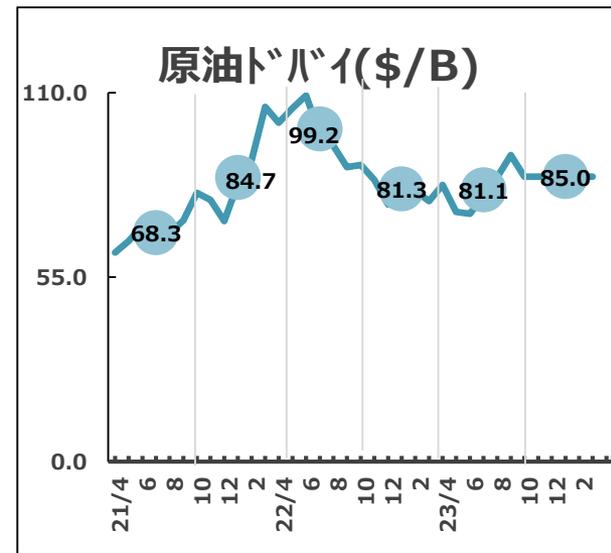
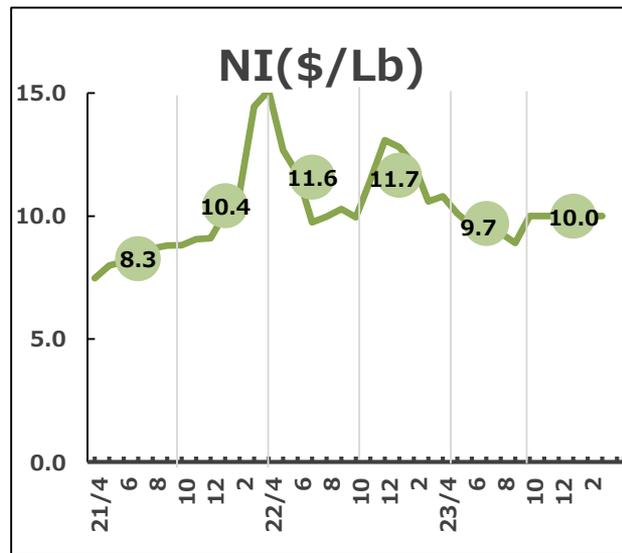
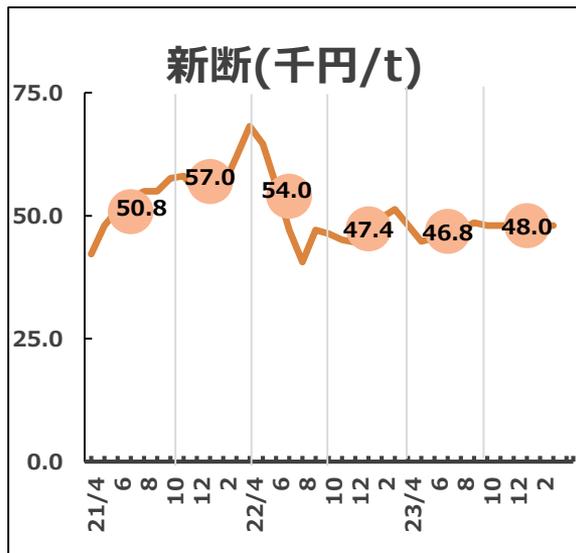
<日系自動車生産見通し>



半導体等部材不足による供給制約緩和を受け、当初想定を上回る水準

■ 23年度 利益計画の前提(市況)

			22年度実績	23/上実績	23/下 計画前提	
					4/28予想差	
鉄スクラップ	中部 H2 建値	千円/ t	46.3	42.9	44.0	-7.0
	中部 新断建値		50.7	46.8	48.0	-6.0
ニッケル	LME	\$/Lb	11.6	9.7	10.0	-2.0
原油	ドバイ	\$/B	90.3	81.1	85.0	±0.0
為替レート	TTM	円/\$	135.5	140.9	145.0	+15.0



■ 23年度 連結業績見通し

- 4/28予想対比では売上数量減がある一方、鉄スクラップなど原燃料市況が当初予想の前提を下回ることによって利益は計画どおりの見通し。
- 前年対比では、ステンレス鋼の在庫調整による数量減を販売価格是正の浸透によって挽回し、前年並みの営業利益を確保する見通し。

(千t・億円)

	2022年度実績			2023年度見通し			前年比	4/28 予想比
	上期	下期	合計	上期	下期	合計		
鋼材売上数量	540	545	1,085	529	547	1,076	-9	-53
売上高	2,819	2,967	5,786	2,886	3,114	6,000	214	0
営業利益	232	238	470	190	280	470	0	0
経常利益	241	240	481	211	274	485	4	0
特別損益	▲ 4	16	12	▲ 27	27	-	-12	0
法人税他	▲ 54	▲ 75	▲ 129	▲ 69	▲ 96	▲ 165	-36	0
親会社株主に帰属する 当期純利益	183	181	364	115	205	320	-44	0

■ セグメント別売上高・営業利益(前年差・予想差)

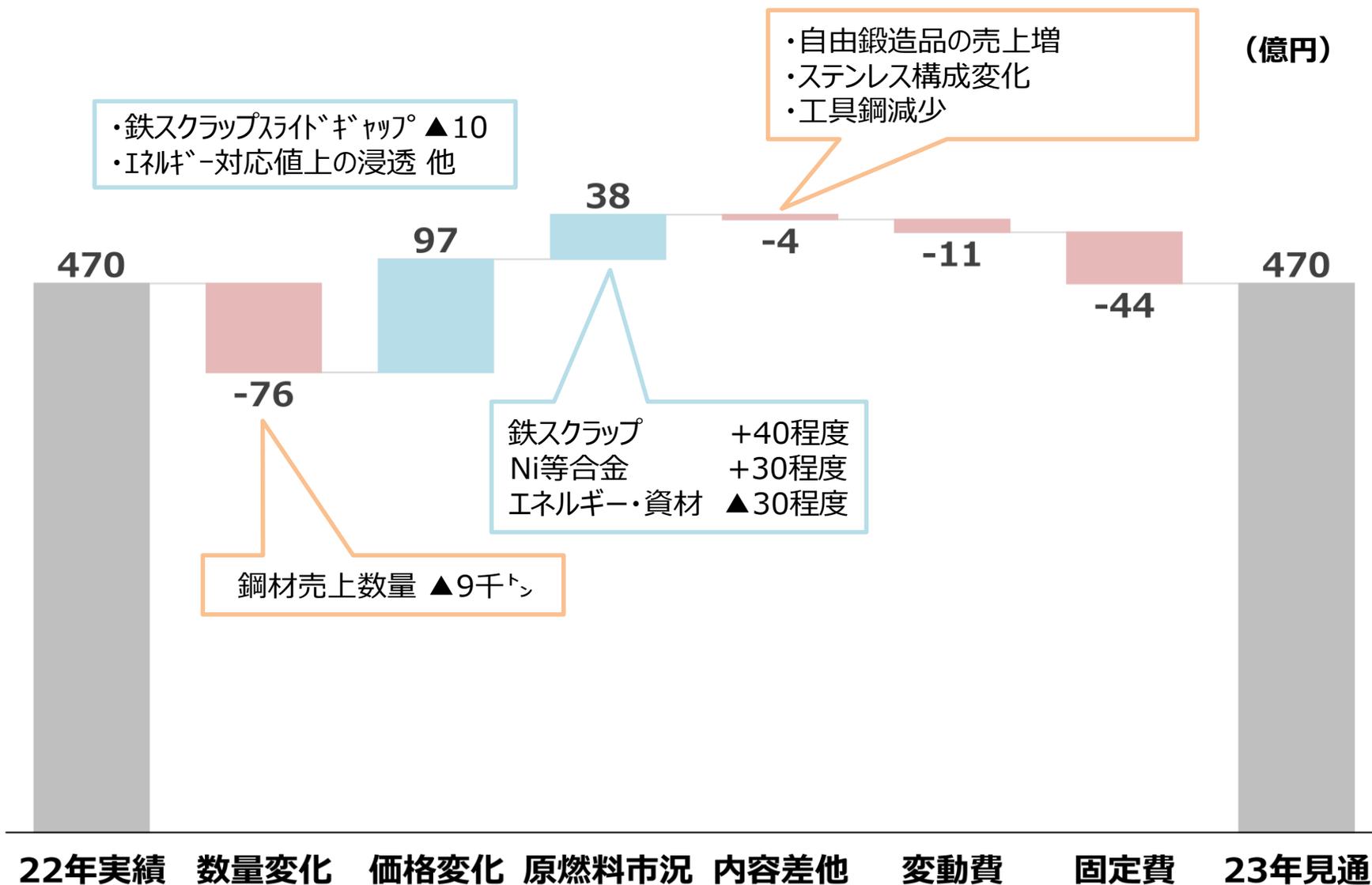
(億円)

	2022年度実績		2023年度見通し						前年差		4/28予想差	
	年間		上期		下期		年間					
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
特殊鋼鋼材	2,148	98	1,089	63	1,181	72	2,270	135	122	37	-50	0
機能材料・ 磁性材料	2,197	243	1,026	71	1,074	119	2,100	190	-97	-53	-100	-25
自動車部品・ 産業機械部品	1,012	82	514	26	626	74	1,140	100	128	18	80	15
エンジニアリング	190	14	110	11	120	4	230	15	40	1	40	5
流通・サービス	239	33	147	19	113	11	260	30	21	-3	30	5
合計	5,786	470	2,886	190	3,114	280	6,000	470	214	0	0	0

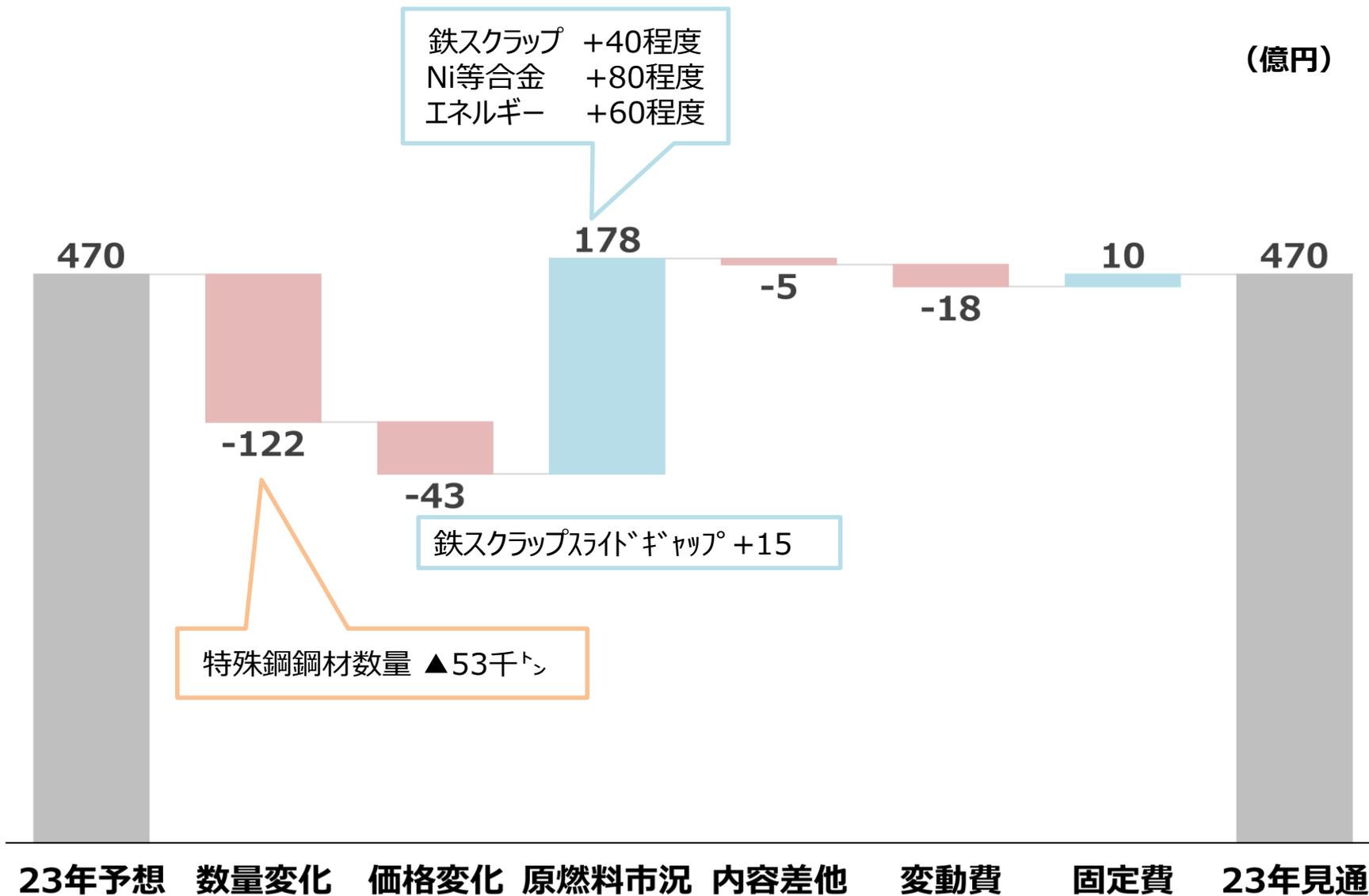
(千t)

鋼材売上数量 (単体)	1,085	529	547	1,076	-9	-53
----------------	-------	-----	-----	-------	----	-----

23年度 営業利益の変化要因（前年差）



23年度 営業利益の変化要因 (4/28予想差)



■ セグメント別概況（特殊鋼鋼材・機能磁性・自動車産機）

特殊鋼鋼材

(億円)

	22年度 合計	23年度		合計	前年差	4/28 予想差
		上期	下期			
売上高	2,148	1,089	1,181	2,270	122	-50
営業利益	98	63	72	135	37	0
スライパキヤツプ°	14	1	3	4	-10	15

POINT

- ・工具鋼の在庫調整、産業機械関連の需要減はあるものの自動車生産は緩やかに回復。
- ・エネルギーコスト増などを販売価格に反映するとともに、工場での効率生産の徹底により、当初計画した利益を確保の見通し。

機能材料・磁性材料

(億円)

	22年度	23年度		合計	前年差	4/28 予想差
		上期	下期			
売上高	2,197	1,026	1,074	2,100	-97	-100
営業利益	243	71	119	190	-53	-25

POINT

- ・各製品の出荷減により、予想対比減益の見通し。
- ・ただし、23年度下期のステンレス鋼は自動車生産の回復に伴って在庫調整は段階的に進展。

自動車部品・産業機械部品

(億円)

	22年度	23年度		合計	前年差	4/28 予想差
		上期	下期			
売上高	1,012	514	626	1,140	128	80
営業利益	82	26	74	100	18	15

POINT

- ・自由鍛造品の受注が好調に推移していることに加え、自動車関連需要も回復基調で当初予想を上回る見通し。

■ 株式分割について

株式の流動性向上と投資家層の更なる拡大を図るため、
株式分割を実施することを取締役会で決議（2023年10月30日）

【株式分割の概要】

分割の方法 1株につき5株の割合を持って分割

基準日 2023年12月31日

効力発生日 2024年1月1日

【株式分割の目的】

2024年の新NISA制度が導入されることも踏まえ、投資家の皆様が
中長期的に保有しやすい投資単位の水準まで引き下げ

■ 配当について

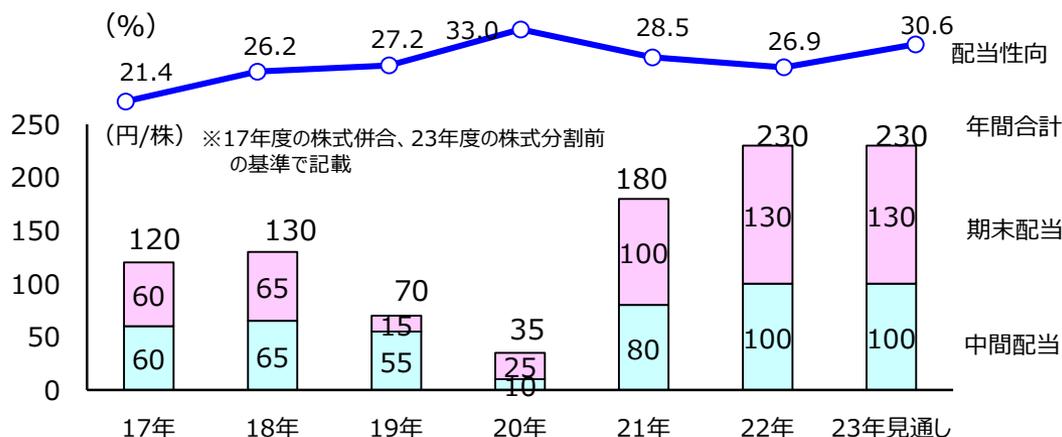
	2022年度		2023年度（見通し）	
	中間期	通期	中間期	通期
経常利益（億円）	241	481	211	485
当期純利益（億円）※1	183	364	115	320
配当（円/株）	100	230	100	230 （分割後期末 26）
配当性向（%）	23.3	26.9	37.2	30.6

※1. 親会社株主に帰属する当期純利益

一過性影響除く配当性向（※2）

配当性向（%）	26.6	29.5	30.1	30.6
---------	------	------	------	------

※2. グループ通算制度、有価証券・固定資産売却益、関係会社清算損、固定資産減損損失を除外（税引後）

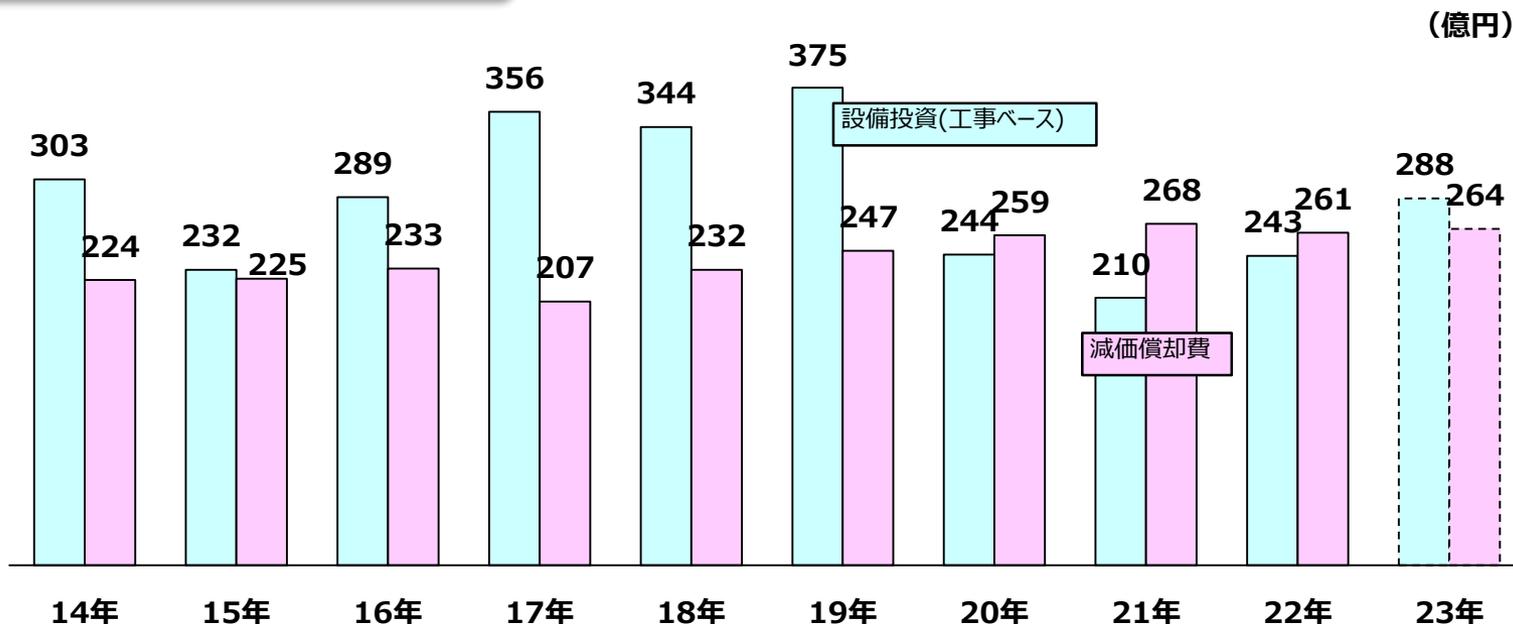


足元の財務状況や今後の戦略投資、カーボンニュートラル対応の投資、一過性の収益影響などを総合的に勘案し、**配当性向30%を目安**といたします。

■ 設備投資

- 成長分野への戦略投資(ポートフォリオ改革)、CO₂削減と事業基盤強化(コスト・生産性改善、BCP対応、防災)投資を推進。
- I T 投資は生産現場における操業の見える化、品質管理の高度化や働き方改革、DX基盤準備を中心に実施。

設備投資・減価償却費推移



トピックス

■ ステンレス鋼事業の見通し

	2023年度上期状況	回復見通し
半導体製造装置向け	シリコンサイクル谷間の局面により前年対比数量減少。	半導体市場は23年4-6月に回復の兆し。当社受注は23年10-12月に底打ちの想定。24年度より回復へ。
自動車他ステンレス鋼	自動車向けの生産は回復基調もサプライチェーンでの在庫調整継続。前年対比販売数量減少。	自動車向け中心に実需に見合った数量へ回復も産業機械向けなどは在庫調整が継続しており、23年度下期は段階的回復を見込む。

図 半導体売上(WSTS)、当社半導体製造装置向受注推移 (前年同期変化率)

- ①半導体売上(WSTS)は23年4-6月に回復の兆しあり
- ②半導体製造装置は半導体売上に対し調整時期が遅れたため、当社受注の底打ちは23年10-12月と想定

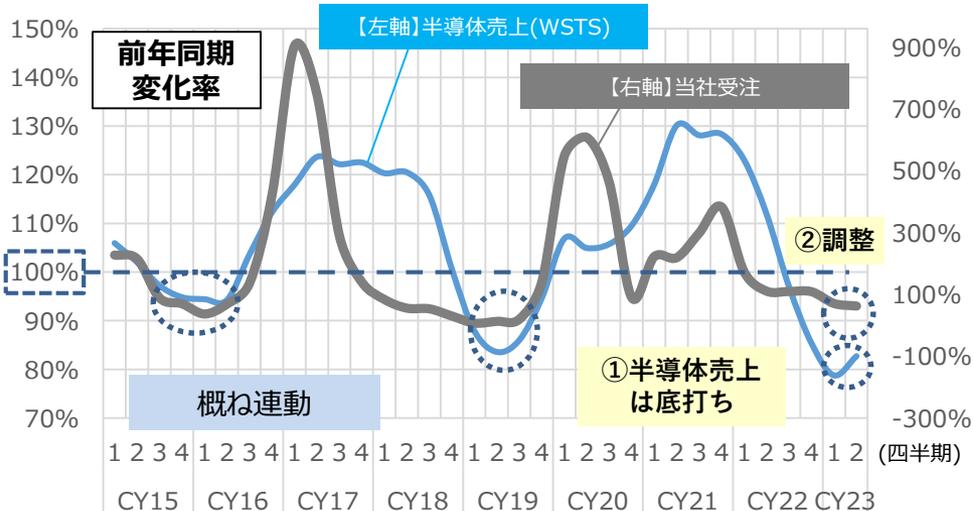
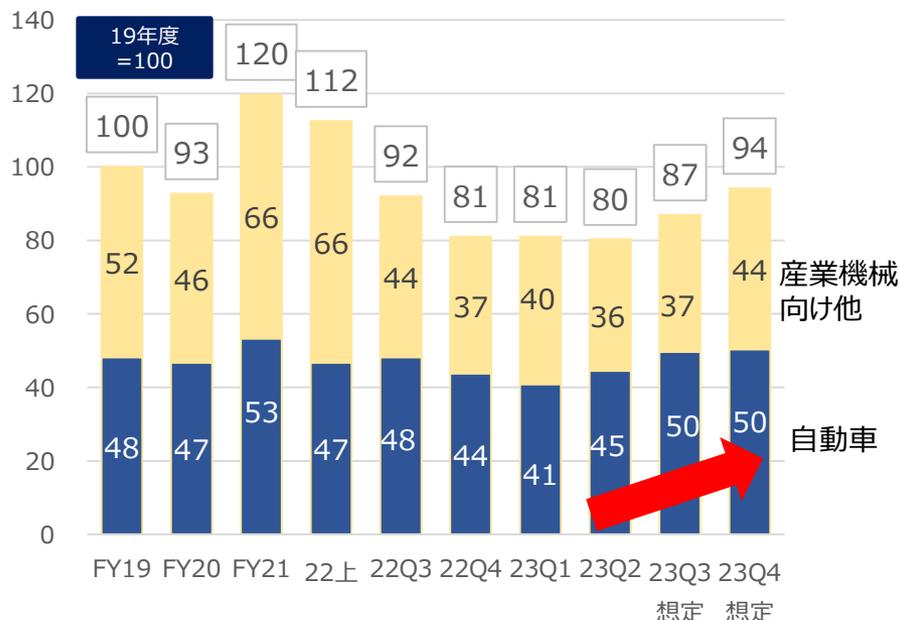


図 ステンレス鋼受注推移(19年度=100) 除く半導体製造装置向け



■磁石事業・チタン事業について

磁石事業のトピックス

大同電工（蘇州）有限公司の清算

- 車載部品の機構変更などの影響による需要低迷もあり、日本拠点（ダイドー電子）への生産集約を実施

なお、生産拠点の集約による売上高への影響はほとんどなく、損益の影響についても、第2四半期時点で判明している費用を最大限に織込み

エリザベス女王工学賞授賞式に顧問 佐川眞人が出席
(2023年10月12日)

- 世界最強の永久磁石「ネオジム磁石」の発明、開発および世界的な商業化の功績が評価され、2022年2月に受賞
- その授賞式がロンドン・バッキンガム宮殿で執り行われました



チャールズ英国王(左)からたたえられる佐川氏

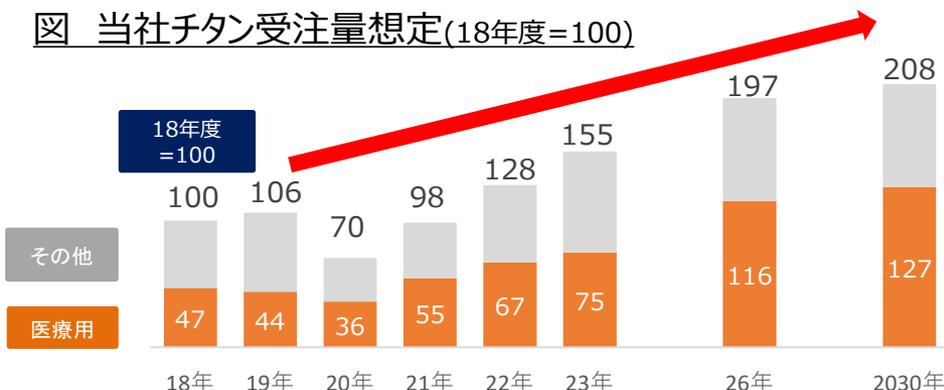


トロフィーを贈られた佐川氏

チタン事業のビジネス拡大

チタン製品の受注数量は2018年対比
2023年度1.6倍、2030年には2.1倍の増加する想定

図 当社チタン受注量想定(18年度=100)



- 足元は、サプライチェーンの多様化の動きもあり受注堅調
- 2010年以降で**売上、利益ともに最高を記録**
(23年度第2四半期累計期間)
- 医療用チタン製品は、世界的な人口の増加、高度医療ニーズへの対応により**中長期的な拡大**が見込まれる
- 医療用チタンの世界シェアは2030年に20%を目指す。
(現状10%程度(当社調べ))
競合：アメリカ・ロシア他のチタン専門メーカー

【当社のチタン製品素材】

- 生体用：人口骨、人工関節、人口歯
- 機器用：エネルギーデバイス、歯科用ハンドピース等



エンジニアリング事業のビジネス拡大

- **脱炭素社会の実現へ向けたニーズを背景に中長期的な事業拡大を目指す**
電気炉など低CO₂先進設備の受注拡大
→高炉メーカーによる電炉需要、普通鋼電炉市場の拡大を取込み
- **操業技術と設備技術の融合でユーザー視点で製品を開発**
- **省エネルギー設備を提供することで、持続可能な社会の実現に貢献**

電気炉・精錬炉の納入実績、シェア（当社調べ）

■ 電気炉

- ・納入実績Σ241基(1950年～)
- ・国内トップシェア（1 / 3 占有）

■ 取鍋精錬炉（L F）

- ・納入実績Σ73基
- ・国内L Fトップシェア（2 / 3 占有）

熱処理炉の納入実績、シェア（当社調べ）

■ 真空焼結炉

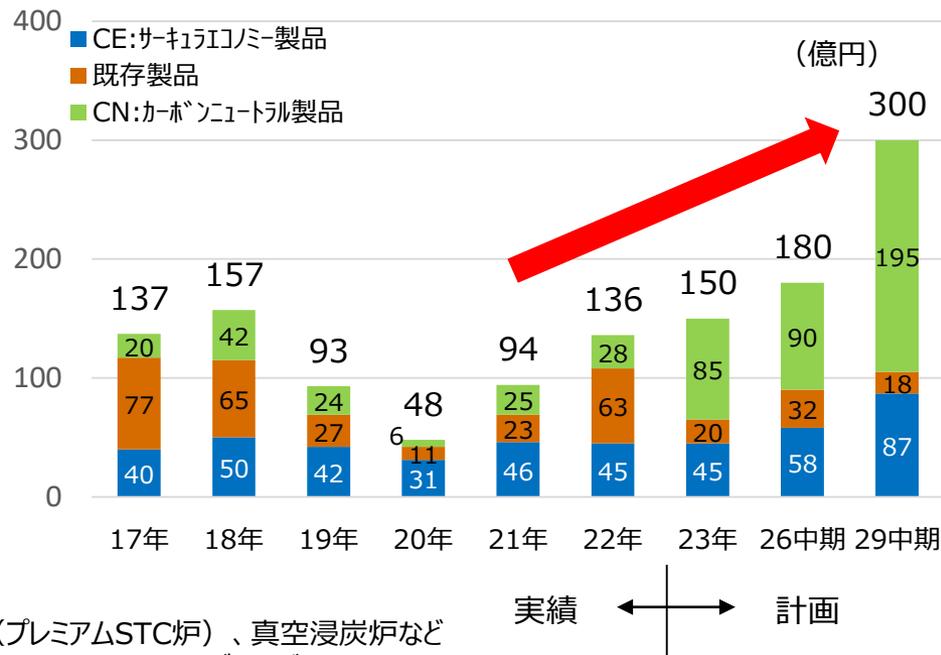
- ・納入実績 Σ137基
- ・国内希土類磁石向けトップシェア

■ 雰囲気焼鈍炉（STC炉）

- ・納入実績 Σ360基
- ・国内特殊鋼熱処理炉トップシェア

C N：カーボンニュートラル製品 炉体巡回式電気炉(STARQ)、熱処理炉（プレミアムSTC炉）、真空浸炭炉など
C E：サーキュラーエコミー製品 下水汚泥炭化炉、電気炉ダストリサイクル炉、メンテナンスサービスなど

図 エンジニアリング事業受注計画（単体）
2 3年対比+150億円の受注 増加を目指す



■ 成長分野への戦略投資

高合金・高機能ステンレス鋼、チタン製品など、今後の成長ビジネス分野へ戦略的に設備投資を実行

	設備投資内容	設備イメージ
<p>真空再溶解炉 (VAR)増強 高機能ステンレス鋼 高合金</p>	<p>半導体製造装置用ステンレス鋼、高合金製造能力増強</p> <p>■ 渋川工場におけるVAR設置 1基 製造能力 10%向上 投資額 約8億円 2023年9月稼働開始</p> <p>■ 知多第2工場におけるVAR設置 2基 製造能力 20%向上 投資額 約5.2億円(含む付帯設備) 稼働時期 2024年度末</p>	 <p>渋川工場に設置したVAR炉</p>
<p>真空再溶解炉 (VAR)増強 チタン製品(医療用)</p>	<p>チタン製品の高受注環境へ対応するため製造能力を増強</p> <p>■ 知多第2工場におけるチタン用VAR設置 1基 投資額 約2.1億円(含む付帯設備) 稼働時期 2024年度末</p>	<p>チタン製品向け検査装置 「超音波探傷装置」 2024年1月に増設予定 (星崎工場)</p>
<p>難加工線材 製造プロセス改善 高合金、チタン製品など</p>	<p>■ 星崎工場圧延ライン増強 高合金、チタン製品などの難加工線材の競争力向上 投資額 約2億円 稼働時期 2024年11月</p>	

■ 水素活用に関連する取組み状況

カーボンニュートラルの実現に向けた水素エネルギー利用の促進に向け、
産業界の横断的枠組みへの参画や水素評価設備の導入を実施

「中部圏水素利用協議会」に参画

「中部圏水素利用協議会」

産業界全体で横断的に検討する日本初の取組み

- 設立時期：2020年3月
- 目的：
水素の需要拡大と安定的な利用のための
サプライチェーン構築を目指し、
水素大規模利用の可能性を検討
- 目標：
2030年における大規模水素社会実装
(年間20万トン規模)を目指して活動

⇒本協議会への参画により、
中部圏における水素需要の拡大や、
水素サプライチェーン構築に貢献していく。

高圧水素ガス雰囲気材料試験機導入

- 目的：耐水素材料の研究開発促進
- 投資額：約6億円
- 設置場所：公益財団法人水素エネルギー
製品研究試験センター
(HyTRec:ハイトレック)

水素が金属材料の特性を劣化させてしまうため、
材料評価を自社で管理し、耐水素材料を開発



高圧水素ガス雰囲気
材料試験機 (外圧式)



暴露試験装置

DAIDO STEEL GROUP
Beyond the Special

■ 資産効率化の推進

- 資産の有効活用を目的に保有資産の売却を推進
- 売却で得られた資金については、成長分野への戦略投資及びカーボンニュートラルに向けた投資に積極的に活用予定

☆ 政策保有株式の売却

- ✓ 2024年3月末時点での、みなし保有株式含め純資産比率20%以下を目指し2023年度下期に売却を推進予定

＜23年3月末時点の純資産対比での政策保有株式比率＞

	投資有価証券	純資産	純資産比率
政策保有株式のみ	718億円	4,055億円	17.7%
みなし保有株式含む	989億円	4,055億円	24.3%

☆ その他の保有資産(不動産)について

- ✓ 上記、政策保有株式以外の保有資産(不動産)についても、経営資源の有効活用、資産効率向上の観点で資金化を検討

ESGの取組み

- ・2023年9月に統合レポートを発行。
- ・ESG説明会（12月19日14時30分）を対面(東京本社)・WEBで開催予定

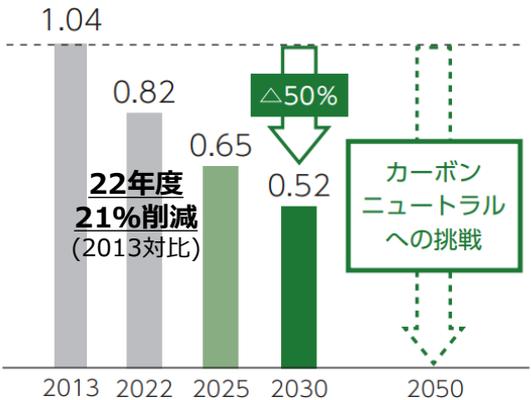
E	1 地球環境の保護 (事業活動)	<ul style="list-style-type: none"> ➢ CO₂排出量削減推進 〔目標：2030年50%削減、2050年カーボンニュートラル〕 →省エネ、CO₂フリー電力で2022年度：排出量21%削減 ➢ 製品別CO₂排出量の第三者機関の認証取得に向け活動中 ➢ 中部圏水素利用協議会への参画(2023年8月) ➢ GXリーグ参画(2023年4月)
	2 地球環境の保護 (製品供給)	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 資源の有効活用に寄与する技術の開発：<u>超高温炭化炉</u> 国土交通省 下水道新的技術実証事業(B-DASHプロジェクト)に採択。今後、CO₂削減効果などを実証し、普及拡大を図る
S	3 社会への 責任と貢献	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 人権の尊重 →グループ人権基本方針の公表(2023年2月)し、風土醸成に向け、人権デューデリジェンスを推進中 <u>国連グローバル・コンパクト(UNGC)に賛同署名、グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン(GCNJ)に加入(2023年7月)</u> ➢ サプライチェーン展開 →<u>CO₂排出、人権リスク調査実施</u>
G	4 ガバナンスの 強化	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 贈収賄防止に向けた取組み →<u>グループ贈収賄防止方針の公表(2023年6月)</u>、贈収賄防止に対する理解の促進のため、行動ガイドラインを作成予定

ESGの取組み

イニシアチブへの参画状況

<p style="text-align: center;">TCFD</p>  <p style="text-align: center;">2021/11 賛同 2022/6~ 開示</p>	<p style="text-align: center;">GXリーグ</p>  <p style="text-align: center;">2022/3 基本構想への賛同 2023/4 GXリーグ参画</p>	<p style="text-align: center;">生物多様性のための30by30 アライアンス</p>  <p style="text-align: center;">2022/9 参加</p>
---	--	---

社会からの評価

<p style="text-align: center;">CDP</p>  <p style="text-align: center;">2022年スコア 気候変動「B」 水セキュリティ「B」</p>	<p style="text-align: center;">あいち生物多様性認証企業</p>  <p style="text-align: center;">あいち生物多様性 認証企業 2022/11 認定</p>	<p style="text-align: center;">CO₂排出量削減の取組み</p> <p style="text-align: center;">Daido Carbon Neutral Challenge</p>  <p>2013 1.04 2022 0.82 (22年度 21%削減 (2013対比)) 2025 0.65 2030 0.52 (△50%) 2050 目標 (カーボンニュートラルへの挑戦)</p>
---	--	--

■ PBR 1倍へ向けて

	中期経営計画	22年度実績	23年度計画
営業利益（億円）	≥400	470	470
ROE	8.0%	10.4%	8.4%

【23中期経営計画における主な成果】

- 自由鍛造品、高機能ステンレス鋼、チタン製品など高付加価値製品の拡大
- エネルギーコスト増大に対する、販売価格への反映、適正マージン確保
- 不採算事業の撤退・成長分野への経営資源集中（型鍛造事業の再構築、工具鋼拠点整理）
- 政策保有株式の売却推進（23年度末純資産比率20%以下を目指し縮減(含むみなし保有株)）
- ESG経営の推進（再生可能エネルギー比率引上げ、グループ人権方針策定他）
- 配当性向の目安を30%へ引上げ（20中期経営計画目安20~25%）

PBR改善

ROEの引上げ

■ 成長分野への投資による中長期的なリターン（利益）の確保

自由鍛造品、高機能ステンレス鋼、チタン製品、エンジニアリング製品など成長分野の需要捕捉

■ 資産の有効活用

適切な棚卸資産管理

政策保有株式、保有不動産の資金化

■ 配当政策

安定した利益還元を継続を基本とし、中長期的な投資、利益水準、財政状態を踏まえ検討

非財務戦略・成長期待醸成

■ ESG対応の推進

E：カーボンニュートラルチャレンジの実行（2030年CO₂排出量50%削減）

S：人的資本経営、ダイバーシティの推進（次中期の経営計画との融合）

G：ガバナンス強化

■ PR・IR・SR活動強化による情報発信

ESG進捗など非財務情報含む情報発信の強化

各種IRイベントを通じた対話の実施

今後の具体的な数値目標に関しては次期中期経営計画にて発信予定

■ 企業 P R 活動の推進

大同特殊鋼に対する企業認知を広めるため、企業コンセプト動画を作成。
8月半ばから9月にかけてTVを中心として、デジタル、新聞、交通などのメディアへ
広告出稿を展開。



Fact Book

Fact Book 業績のハイライト

連結

(百万円)

	19/3	20/3	21/3	22/3	23/3	18/9	19/9	20/9	21/9	22/9	23/9
売上高	543,255	490,421	412,722	529,667	578,564	269,643	252,476	179,490	255,224	281,857	288,594
営業利益	33,815	24,768	10,070	36,982	46,986	16,752	13,711	▲3,531	19,156	23,225	19,003
経常利益	34,343	24,298	12,642	39,200	48,122	17,569	13,711	▲2,112	20,556	24,092	21,083
当期純利益	21,182	10,987	4,516	26,894	36,438	10,759	11,257	▲2,318	12,840	18,294	11,465
研究開発費	5,638	6,002	4,722	5,785	6,255	2,788	2,896	2,185	2,694	3,092	3,095
設備投資額(計画)	37,200	25,300	12,500	25,500	34,900	18,800	15,100	7,500	13,150	9,000	9,000
設備投資額(工事)	34,413	37,529	24,448	21,027	24,284	15,027	22,092	13,955	10,172	11,077	12,808
減価償却費	23,171	24,662	25,912	26,797	26,054	11,453	12,022	12,794	13,469	12,988	13,182
金融収支	1,606	1,297	806	1,326	1,544	584	656	459	693	828	844
総資産	650,697	625,899	665,506	728,187	773,851	661,998	651,112	621,997	686,373	757,206	794,523
自己資本	285,508	273,561	303,143	329,713	368,718	291,948	293,276	276,815	315,674	343,043	390,894
有利子負債	174,998	193,881	198,812	229,090	236,761	174,928	185,536	207,302	210,608	250,076	234,558
従業員数(人)	12,421	13,436	13,109	12,605	12,422	12,559	13,775	13,474	12,838	12,668	12,096
ROA(%)	5.3	3.8	2.0	5.6	6.4	5.4	4.2	▲0.7	6.1	6.5	5.4
ROE(%)	7.4	3.9	1.6	8.5	10.4	7.5	7.8	▲1.7	8.3	10.9	6.0
連結子会社数	38	65	66	62	63	38	65	68	65	62	64
(持分法適用会社外数)	(6)	(9)	(9)	(8)	(8)	(6)	(9)	(9)	(9)	(8)	(8)
連単倍率(倍)											
売上高	1.6	1.6	1.7	1.5	1.5						
経常利益	1.4	1.2	1.4	1.6	1.3						
当期利益	1.3	1.0	0.7	1.2	1.3						

* 減価償却費は長期前払費用含まず。当期純利益は15年度以降、親会社株主に帰属する当期純利益

Fact Book セグメント別売上高・営業利益

連結

<新セグメント(12年4月~)>

(億円)

		19/3	20/3	21/3	22/3	23/3
特殊鋼鋼材	売上高	2,078	1,817	1,458	1,978	2,148
	営業利益	60	52	▲ 26	38	98
機能材料・磁性材料	売上高	1,846	1,674	1,494	1,976	2,197
	営業利益	207	136	122	267	243
自動車部品・ 産業機械部品	売上高	1,099	973	808	925	1,012
	営業利益	23	4	▲ 21	50	82
エンジニアリング	売上高	275	266	202	182	190
	営業利益	23	30	8	▲ 13	14
流通・サービス	売上高	135	174	165	236	239
	営業利益	25	26	18	28	33
合計	売上高	5,433	4,904	4,127	5,297	5,786
	営業利益	338	248	101	370	470

(億円)

		18/4-9	18/10-3	19/4-9	19/10-3	20/4-9	20/10-3	21/4-9	21/10-3	22/4-9	22/10-3	23/4-9
特殊鋼鋼材	売上高	1,020	1,058	971	846	598	860	932	1,046	1,028	1,120	1,089
	営業利益	21	39	32	20	▲ 30	4	15	23	42	56	63
機能材料・磁性材料	売上高	927	919	847	827	648	846	948	1,028	1,096	1,101	1,026
	営業利益	114	93	70	66	22	100	139	128	134	109	71
自動車部品・ 産業機械部品	売上高	554	545	499	474	361	447	465	460	495	517	514
	営業利益	11	12	6	▲ 2	▲ 41	20	31	19	34	48	26
エンジニアリング	売上高	126	149	124	142	103	99	87	95	83	107	110
	営業利益	8	15	15	15	5	3	▲ 7	▲ 6	4	10	11
流通・サービス	売上高	69	66	84	90	85	80	120	116	117	122	147
	営業利益	14	11	14	12	9	9	14	14	18	15	19
合計	売上高	2,696	2,737	2,525	2,379	1,795	2,332	2,552	2,745	2,819	2,967	2,886
	営業利益	168	170	137	111	▲ 35	136	192	178	232	238	190

(注記)

本資料に記述されております業績見通し等の数値につきましては、現状で判断しうる一定の前提に基づいております。

今後発生する状況の変化によっては異なる業績結果となることも予想されますので、投資等の判断材料として全面的に依拠されることは差し控えて頂きますようお願いいたします。

また今後予告なしに予想数字が変更されることがあります。本資料にある情報をいかなる目的で使用される場合におきましても、各自の判断と責任において使用されるものであり、本資料にある情報の使用による結果について、弊社は何らの責任を負うものではありませんのでご了承ください。